

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も、5領域それぞれの重点項目に対して各2つずつ計10の達成目標を掲げて取り組んだ。重点項目の内容は、令和3年度末の反省と学校評議員の意見を参考にして、より現実的・具体的となるよう設定し取り組んだ。

「1週間あたりの家庭学習時間」については、学校全体で平均600分の結果となり、前年度の526分から増加した。家庭学習だけでなく放課後などの学習時間も含めたことも増加の要因だが、特に3年次の進路決定に向けての教員による個人指導やクラスの教え合いの雰囲気や学年が作れたことが生徒の学習意欲につながったと思われる。

「保護者同意の進路希望先決定率」については、3年生で100%、2年生で87.5%とどちらも目標に到達できた。進路ガイダンス、3年生の8限補習等を早い時期から実施し、個人面談による学力の把握、保護者との面談等が上手く機能し、生徒の進路意識を向上させることができたものと考えている。

「学校行事、生徒会行事、学校生活への満足度」については全ての行事で目標の満足度を超えており、行事によっては全生徒が満足したと答えた行事もあり、今後も魅力的な行事を実施していきたい。

「教育活動への理解を深める情報発信の強化」では、保護者のホームページの評価が25点満点中19.7点とほぼ目標値を達成できたが、高評価には至っていない。行事の様子や部活動の記録などをこまめに投稿するなどしたことが評価につながっているが、本校の特徴的な写真の掲載を増やしたり、新たなSNS発信を提案したりするなどして本校の魅力発信方法の検討が必要であると考えている。

しかしながら、学習指導面や進路指導面等の多くの項目で重点目標を達成していることを勘案すると、学校経営全体が健全で本校生徒に即しており、生徒が前向きな気持ちをもって学校生活を過ごした結果であると考えている。

7 次年度へ向けての課題と方策

「悩みを相談しやすい学校づくり」については、全員面談の回数は目標を達成できてはいるが、人間関係などに悩み授業に出られない生徒が多数いる。外部の専門家とも連携し相談体制の充実に努めなければならない。

学習面では、卒業学年以外の学習時間が伸び悩んでいる。一斉指導だけでなく個別学習指導の充実や今年度から取り入れた学年別の進路研究の時間についてもより効果的な実施方法について検討する機会を設けていきたい。

学校運営協議会の委員からは、「社会の常識や厳しさを伝えることも重要」との意見をいただいた。様々な体験や講座などの機会を設け、生徒自らの気づきや行動につなげていくことが必要である。

本校は小規模校であり、教員も生徒も変化に対応しやすい。良いアイデアは積極的に学校経営に取り入れ、さらに魅力のある学校となるよう改革を進める。

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和4年度 南砺平高等学校アクションプラン				- 1 -
重点項目	学習活動			
重点課題	学習に取り組む態度の育成および教師の指導力の向上			
現 状	・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨めていない生徒がいる。 ・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・教員の年齢層が大きく2つに分かれており、ICT機器の利用方法も大きな差がある。			
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたり、授業以外の学習時間		②タブレットを利用した授業の満足度の向上 ・タブレットの利用の満足度を3点満点で評価 (各学期末に取り組み状況で調査)	
	・各学年平均600分以上		・各学年2.5点以上(3点満点)	
方 策	・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、授業以外の時間にも学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習・生活実態調査を実施し、生活指導を合わせたきめ細やかな面接指導、助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。		・校内研修等を通じて、ICT機器の特性を理解し効果的な利用に繋げるとともに、オンライン授業にも備える。 ・年2回の互見授業期間以外にも、積極的にICT機器を利用した授業を公開し、教員相互の資質向上を図る。	
達成度	2学期末まで 第1学年 510分(前年度421分) 第2学年 452分(前年度717分) 第3学年 834分(前年度474分) 平均 600分(前年度526分)		1学期末調査結果 第1学年 2.4点 第2学年 2.6点 第3学年 2.7点 平均 2.58点	2学期末調査結果 第1学年 2.3点 第2学年 2.6点 第3学年 2.5点 平均 2.44点
具体的な取組状況	・学習・生活実態調査を通年で実施し、各自の学習時間を意識させ、担任から指導・助言を粘り強く行った。 ・3年生は進路が決定するまでは放課後に個別指導を受け、集中して学習に取り組み、半数以上が目標値を達成している。しかし、進路決定後の学習については課題が残った。 ・1、2年生は定期考査の直前は目標値を超えている。しかし、それ以外の期間の学習時間はかなり少ない。1年を通じて、状態は変わらなかった。		・昨年度に生徒全員分のタブレット導入、本年度は通信環境の再整備がなされ、ほぼすべての授業、教室においてタブレットの利用が可能となった。 ・互見授業等でタブレットを使用した授業を見学、情報交換することにより、授業改善につなげた。 ・コロナ等による出席停止者対象のオンライン授業を多くの教員が取り組むことができた。	
評 価	1年生:B 2年生:C 3年生:A		B	
学校運営協議会の意見	・生徒の個人差(学力面や性格の違い)が大きいことから一斉の指導が難しいので個人に合わせた指導が望ましい。 ・進学後や社会に出てからの厳しさを伝え、進路決定後も学ぶことに励むよう伝えてほしい。		・オンライン会議などは通常顔出しが普通であることからオンライン授業でも顔出しでやることを考えてほしい。 ・オンライン授業では、双方向の場面(質問、理解度表示)を多用してほしい。 ・オンライン授業をスマホではなくタブレットなど大きな画面で見る指導を徹底してほしい。	
次年度に向けての課題等	・授業以外の学習時間をより正確に把握するため、今年度に引き続き放課後の自習時間、個別指導時間を加えた記録を次年度も行い比較材料として指導に役立てる。 ・定期考査後、3年生の進路決定後の学習時間の確保が必要である。		・コロナ休校時等における効果的なオンライン授業、在宅生徒に対するオンライン授業実施連絡方法、在宅生徒のオンライン授業の視聴方法などについてよりよい方法を検討することが必要である。 ・生徒用タブレットの管理、適切な使用法の徹底が必要である。 ・授業におけるICT機器のより効果的な使用方法、使用事例の情報交換、互見授業も引き続き実施していくべきである。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活																
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について																
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車や徒歩による登下校時の交通ルールに対して、安易な行動が時々見受けられる。 ・周囲には商店や高校生が利用できる施設等も少なく、スマホや携帯といった通信機器に依存し、トラブル等に巻き込まれやすい環境にある。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が深いものとなりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・精神的に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・自主的な健康管理ができず、睡眠不足による体調不良を訴える生徒が増えている。また、食に対する正しい知識が乏しく、不適切なダイエットに頼る傾向がある。 																
達成目標	①悩みを相談しやすい学校づくり ・全員面談の回数	②健康保持に対する自己管理能力の向上 ・各自が健康保持に関する目標を掲げ、「達成できた・だいたいできた」と回答する生徒の割合															
	・年5回以上	・75%以上															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒に声がけをし、悩みを訴えやすい雰囲気づくりに努める。 ・定期的に面談をする計画を立てる。 ・スマホの使い方も含め、いじめの加害者にならないような指導も行う。 ・何かあった場合の対応策について周知を図り、迅速に対応できる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が睡眠や食事等、自己の健康保持のために目標を学期ごとに設定し、評価する。 ・生徒の関心が高い項目について、保健だより、給食だより、生徒厚生委員会の活動を通して、目標達成のための方策や情報提供をする。 ・保健室での保健指導や、生徒寮での舎監による指導を行う。 															
達成度	<p>2学期末までで、 <u>1学年5回、2学年5回、3学年5回</u></p> <p>の全員個人面談を実施することができた。また、悩みを抱えている生徒に対する声かけや相談等も日常的に行うことができた。</p>	<p>学期ごとの自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自己評価</th><th>1 学期</th><th>2 学期</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 達成できた</td><td>20%</td><td>24%</td></tr> <tr> <td>B: だいたい達成できた</td><td>51%</td><td>48%</td></tr> <tr> <td>C: あまりできなかった</td><td>22%</td><td>23%</td></tr> <tr> <td>D: 全く達成できなかった</td><td>7%</td><td>5%</td></tr> </tbody> </table> <p>A,Bの割合:1学期71% 2学期72%</p>	自己評価	1 学期	2 学期	A: 達成できた	20%	24%	B: だいたい達成できた	51%	48%	C: あまりできなかった	22%	23%	D: 全く達成できなかった	7%	5%
自己評価	1 学期	2 学期															
A: 達成できた	20%	24%															
B: だいたい達成できた	51%	48%															
C: あまりできなかった	22%	23%															
D: 全く達成できなかった	7%	5%															
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・考査前面談や科目登録の面接などに合わせて実施した。また、普段から生徒と教員との良好な人間関係が築かれており、生徒同士のトラブルにも迅速に対応することができた。 ・ネット上でのトラブルも数件発生したが、面談を通して指導することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠や食事、スマホの使い方に関する目標を掲げる生徒が多かった。 ・保健室の来室状況から、コンタクトレンズやスマホの使用が不適切な生徒が多いように感じられたので、文化発表会で生徒厚生委員が眼の健康について発表し、適切な使用を呼びかけた。 ・南砺市食生活改善推進員の方に、食事のバランスや適正体重について講義をしていただいた。 															
評 価	A	B															
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出ると業績など自己分析することが求められるのでしっかりと自己評価できる力をつけてほしい。 ・一般社会でも心が弱い人が増えてきているが、自分の悩みなどを素直に言えることが大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の問題の側面でもあるが、学校から様々な情報を情報発信し、生徒自らが問題意識を持って解決できるようにしてほしい。 ・健康や食事の問題について先生方だけでなく外部の方々に関わって講義することは良いことである。 															
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には1年間通して、きめ細やかな対応をとることができた。深刻ないじめやネットトラブルもなく安心して学校生活を送ることができたと思う。次年度以降も継続していきたい。 ・ただし、人間関係に悩みを持つ生徒もいることから、教員だけでなく外部の専門家とも連携し、相談体制の充実を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの評価だと自分の目標を忘れてしまっているため、毎月評価し、自分の健康に意識を持たせることが必要である。 ・食事バランスを意識できるようになる指導が必要である。 ・スマホの適切な使用については、今後も呼びかけていきたい。 															

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 南砺平高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚および生徒個々の希望進路に応じた力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先が大学から就職まで多様で、学力差も大きく、十分な対応ができていない所もある。 ・進路に関する生徒と保護者との認識のずれ等の要因により、進路先決定までに時間がかかり過ぎている。 ・社会情勢に関心の低い生徒が多く、毎日ニュースを見る生徒は50%程である。 ・外部模試は、令和元年度より希望制とした。また、令和元年度から1・2年生に導入した「高校生のための学びの基礎診断」を基礎力診断テストから、1学期にスタディサポート、3学期に実力診断テストに変更し、生徒の基礎学力の判断指標とし、教科指導に生かす。 ・従来、検定試験として、1年生に実用英語技能検定(10月)、2年生に日本漢字能力検定(2月)を全員受検とし、他の回は希望制としてきた。希望制の検定試験として、数学検定、世界遺産検定、ビジネス系の検定を実施している。検定試験を通して、主体的に学習に取り組むことで、基礎学力の充実を図る。 	
達成目標	①一人一人に対応した進路指導の充実 ・保護者同意の進路希望先決定率	②基礎学力の充実 ・高校入学から卒業までに、各種検定1種目以上(3級以上)取得した3年生の割合
	・3学年 90%以上(7月末) 進学希望者は第1受験希望校を決定する。就職希望者は入社希望企業業種を決定する。 ・2学年 80%以上(12月末) 進学希望者は進学希望校種・学部・学科・コース等を決定する。就職希望者は就職の意思決定をする。	・90% (現3年生の昨年度までの取得率 80.0%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、卒業生と語る、オープンキャンパスやインターンシップなどを通して、進路意識の向上を図る。 ・希望進路先に対する基礎学力の状況を家庭学習時間調査結果や外部模試・検定を通して把握する。 ・進路希望調査(4月・7月・12月)をもとにした進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験(漢字、数学、英語、ユネスコ世界遺産、秘書検定)を合わせて8回実施する予定である。 ・1年生は6月の日本漢字能力検定、2年生は8月に日本漢字能力検定を全員受検する。クラス全員で合格に向けて取り組むことで、クラスの学習に対する意識と基礎学力の向上につなげる。朝テストなどを利用し、検定に向けての学習を促す。
達成度	・3学年 100%(7月末)26名決定。 ・2学年 87.5%(12月末)21名決定。3名検討中	検定取得率 80.8% 検定合格者 21名/26名 内訳 ①実用英語技能検定合格 18名(6名) ②日本漢字能力検定合格 9名(9名) ③実用数学技能検定 5名(5名) ④世界遺産検定 5名(2名) ⑤秘書検定 1名(2名)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・6月から「3年生8限補習」を実施した。3年生全員に指導担当教諭を割り振り、進路希望先合格に向けて、個別学習指導、小論文・作文指導を実施した。 ・進路ガイダンスを6月に実施し、大学～専門学校の学校説明会を行い、面接のポイントや小論文の書き方などより実践的な内容を実施した。 ・2学期には、明確化した進学・就職先に対応した教科指導、小論文・作文、面接指導を全教員が担当・指導し、2学期末考査まで継続した。 ・1、2学期末考査後～終業式までの7限帯の授業を進路研究の時間とし、各学年主導の進路を考える時間とした。1学期は1年生は文理選択、2年生は進学指導、3年生は進学・就職指導を行った。2学期は1、2学年だけ実施した。 ・進路指導の時間を確保できたことで、生徒との面談の時間や進路に関する活動が十分に行えた。 	①実用英語技能検定は従来1年生が全員受検としてきたが、全学年希望制とし、英語科が主体となって合格に向けての指導を実施した。3年生の取り組みの意欲は高く、2級合格者が1名、準2級合格者が8名になるなど成果をあげることができた。 ②日本漢字能力検定は、1、2年生は全員、3年生の希望者が受検した。 ③実用数学技能検定は希望者が受検し、2級合格者2名であった。 ④世界遺産検定は、全学年の希望者が受検した。検定間近になると、休み時間や自習時間を検定の学習に取り組む生徒の姿も見られるなど、学習に対する雰囲気も良くなっているクラスもあった。
評 価	A	C
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれの小論文や面接など多くの先生が関わっており良いことである。 ・今後も継続してきめ細やかな指導をお願いしたい。 	・検定取得状況を発信することが本校のアピールになるのではないかと。特に世界遺産検定の取り組みを本校の特色としてもいいのではないかと。
次年度に向けての課題等	・1、2学期末に実施した進路研究の時間の活用について、実施期間・内容などを検討し、次年度に反映させたい。	・進路面談や進路行事を通して、1年生の早い段階から検定取得が進路希望先の受験において、有利な評価になることを伝え続け、学習の動機付けとしていきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 南砺平高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に、生徒が主体の学校作りを目指しており、生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分が多い。 ・放課後、部活動のない時間帯に学習せず、スマホをさわっている生徒が見受けられる。 ・小中高合同運動会、球技大会、文化発表会など、生徒が積極的に取り組んできた行事は多いが、コロナ禍で行事が中止もしくは縮小・制限され、モチベーションが低下気味である。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 	
達成目標	①学校行事、生徒会行事、学校生活への満足度	②読書習慣の確立 ・各自が年間読書の目標冊数を設定、その達成度
	・5段階評価で平均4.0以上の生徒が80%以上	・各自の達成度の平均が80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を大切に運営を重視する。 ・多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てる。 ・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書週間を毎学期実施し、生徒全員が読書に取り組める機会を設ける。 ・「図書だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫の蔵書を充実させる。 ・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。 ・生活実態調査に冊数を記入し、読書量を意識させる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・調査したすべての行事で4(だいたい満足した)以上の生徒が80%以上であった。 (小中高合同運動会88%、桂湖での野外活動100%、すけろく改装81%、球技大会81%、茅刈り体験91%、文化発表会88%) 	年間読書の目標冊数を達成した生徒は <u>59.5%</u> であった。 ※4月から1月までの期間における暫定冊数
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てた。 ・生徒の自主性を大切に、多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てた。 ・野外活動は天気にも恵まれ、五箇山を満喫することができた。特に桂湖でのカヌーが楽しかったようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期に朝読書週間を実施した。 ・出張図書として教室の前に何冊か本を置き、貸し出しができるようにした。 ・表紙が見やすいように展示を工夫した。 ・読書週間後に読みたい本のアンケートを実施し、生徒の関心をもとに選書を行った。 ・7月、12月に図書だよりを発行し、本を紹介した。 ・図書室前に新着図書の一覧を掲示した。
評 価	A	C
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいだけでなく地域への貢献につながっている行事もあり良いことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい本もあるが見つけるのが難しい。先生方が学生時代に読んだ本の紹介や授業の中で関係する本をすすめたり、漫画をきっかけにしたり、興味を持たせるようあらすじを紹介するなど生徒への刺激の与え方が大事である。 ・学校だけではなく家族間での働きかけも必要である。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も生徒が主体となり、準備を重視した行事を実施していきたい。 ・今後も五箇山を体感できる行事を継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がどのような書籍に興味、関心を抱いているかなども調べ、より読書量が増えるよう工夫する必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 南砺平高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)	
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における生活と学習の質の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は7月、12月、3月に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 ・本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、内容に対する保護者の満足度を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の寮生活を観察してみると、生活面と学習面において、寮生にはそれぞれ得手不得手があり、なかなか改善されていないように思われる。これまでのように、生活面や学習面への統一目標を掲げ、それに向かって努力させることも必要ではある。しかし、ここ数年多様化が目立つ寮生の場合、生活のペースや能力を一人一人に合わせた上で目標を設定させた方が、少しでも互いの努力の成果が分かると同時に良い刺激となり、生徒寮全体が活性化するのはないかと思われる。
達成目標	①HPの内容に対する保護者の評価 ・5項目(デザイン、内容、投稿スピード、操作性、情報量)を5点満点合計25点で評価(学期末保護者会時に調査)	②寮生活の目標と学習時間の目標の達成率 ・一人一人が寮生活の目標と学習時間の目標を学期ごとに掲げ、「達成できた・だいたいできた」と回答する生徒の割合(毎月のアンケート調査)
	・保護者の点数の平均20点以上	・各学期の目標達成率が75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のHPに学校行事等の記事をその都度掲載し発信する。 ・更新状況を保護者に安全メールで知らせる。 ・学期末保護者会で、HPに掲載した内容について評価してもらう。 ・各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない範囲で、現状の生活と学習の質を上げる目標を一人一人に設定させ、振り返りにより自信を持たせる。 ・それぞれが設定した目標の内容は他の寮生には伝えないが、毎月の目標の達成度を寮内に掲示し、互いに刺激し合うことで常に意識させる。 ・担任や舎監には寮生全員分の調査用紙を回覧し、日頃の指導に役立ててもらう。
達成度	HPに対する保護者の評価(25点満点) 《各学年の平均点》 1学年………19.4点 2学年………18.8点 3学年………20.9点 合計………19.7点 《各項目の平均点(5点満点)》 デザイン……3.9点 内容……4.0点 掲載の早さ……3.8点 操作性……3.9点 情報量……4.0点	1学期の達成率 生活目標97% 学習目標95%
		2学期の達成率 生活目標93% 学習目標97%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、生徒会行事、部活動等の記事を4月から1月の9ヶ月間に毎月1回以上更新し、計54回更新することができた。 ・各クラス担任からもHPを閲覧する保護者が増えるよう生徒を通じて呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期の始めに、それぞれが手の届く高さの目標を設定し、毎月達成度の調査を実施した。 ・毎月の自己評価の達成率を生徒寮に掲示し、寮生同士の良い刺激材料とした。 ・寮生が記入した目標や自己評価は、職員への生徒指導の一助となるように、職員が閲覧できるようにした。 ・学年と男女別に達成率を公表したことで、寮生活における自分の目標を定期的に思い出し、気の緩みが今までよりも減ったように思われた。 ・寮生ひとり一人が立てた目標を、職員が閲覧できるということから、職員からも納得してもらえる具体的な目標を記載していた。
評 価	B	A
学校運営協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者だけが記事をアップできる体制でなくどの先生も記事をアップできる体制や生徒自身が記事を作成し、紹介できるページがあると良い。 ・HPだけでなくInstagramなど写真を多用するSNSで本校の様子を発信し、HPにもつなげていけば良いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年との交流を大事にしてほしい。ただし、仲良しな関係だけでなく上下関係も学ぶことができれば社会に出てからも役に立つ。
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・HPに関心をもって閲覧してくださる保護者が多くなった。またHPに対する要望も多くなってきた。それらに応えるようさらに内容を充実させたい。 《保護者からの要望》 ・部活動の成績が古い。最新のものを掲載してほしい。 ・毎月の行事予定を早めに掲載してほしい。 ・以前のように給食のメニューの写真を掲載してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮生の意識が多種多様化してきているため、統一した目標を挙げるのが難しくなっており、今回の取り組みはとても良かったと思う。 ・昨年度までアクションプランにしていた、コロナ感染防止対策「手洗い・うがい・検温」も毎月調査し、1・2学期全体における「だいたいできている」以上の割合は99%だった。コロナが終息するまでは、この調査も続けていった方が良い。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)